

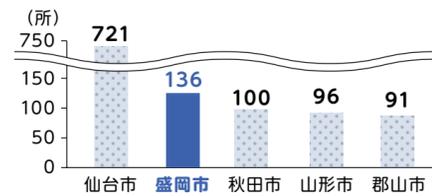
盛岡から世界を目指す 地域経済をけん引する産業へ

市では、世界に通じる魅力ある産業が集積する盛岡を目指し、「IT産業」「ヘルステック産業」を中心に、企業誘致や理工系人材などの地元定着の強化に取り組んでいます。現在、IT産業の事業所数は100社以上で、東北では仙台市に次ぐ規模を誇ります。さらに、ヘルステック産業では産学官金※が連携した取り組みが活発化するなど、産業集積につながる強みが新たに生まれています。

※産学官金：教育・研究機関と企業、行政、金融機関

■IT産業事業所数(東北6県主要都市上位5都市)

※総務省・経済産業省「令和3年経済センサス活動調査結果」より



IT 情報技術産業

進化を続け社会を大きく変える

コンピューターやインターネットなどの通信技術を活用し、あらゆる産業や生活に取り入れることで課題解決や新たな価値を生み出すことを可能にします。全ての経済社会活動で欠かすことのできない分野として、成長を続けていくことが期待されています。

HEALTH TECH ヘルステック産業

最先端技術で健康と医療を支える

先進的な技術を活用した医療・介護・健康増進などのための機械器具や医薬品、ソフトウェアなどに関する産業。高齢化により、遠隔医療に関する技術革新や健康の維持・増進のための機器などの普及が急加速しています。



IT 東北第2位のIT産業の集積

市は、さらなるIT産業の集積や事業拡大のため、企業への新事業開発や起業・創業の支援などに取り組んでいます。

地域企業成長加速支援事業

「MORIOKA ACCELERATOR PROGRAM 2023」

デジタル技術を活用して事業拡大に取り組む中小企業を「盛岡スタートアップ」として認定し、集中的な支援を実施しています。



市の主な支援の内容

- ◆事業拡大サポート
- ◆メンター(助言者)を紹介
- ◆商談機会の提供・ネットワーキング
- ◆PR機会の提供・情報発信 など

認定企業事業紹介

システム開発で問題解決につなげる

株式会社AtoZテクノロジー 張 精 代表取締役

令和4年に設立後、画像認識技術を使って、工場などで欠陥を自動検出するシステムや、手の動きなどを認識して接触せずに操作できる非接触リモコンの開発、画像処理やAIに関する事業所向けの教育支援などを行っています。

ソフト開発がメインなので、自社では賅えない設備や機器などのハード面を担うパートナーがほしいと思い、このプログラムに応募しました。システムを使ってさらにいい商品を作り、社会の発展に貢献できるよう挑戦し続けたいです。



自動車工場などで、塗装した表面にある人の目では見落としやすい細かい傷などを検出します。画像認識技術を使って工場での問題点をどう解決するかをよく相談した上で、システムを開発するよう心がけています。



「支援の質」を飛躍的に伸ばす2つの改革

株式会社CREDO 山門 武志 代表取締役

文部科学省の令和4年の調査結果によると、通常学級に在籍する小学生の10.4%に発達障害の可能性があり、読み書きや対人関係に困難があることが明らかになっています。特性に応じた適切な支援が課題とされていることから、弊社では岩手で初めて集団の運動療育に特化した放課後等デイサービスを開所し、子どもたちの発達を促す運動療育プログラムを開発・提供しています。また、今後の命運を分けるのは、やはりテクノロジーの活用。日々の支援をビッグデータとして蓄積し、ノウハウとして利活用できれば支援の質が上がり、より子どもたちの笑顔につながると考えています。



起業・創業する人を支援しています

市は、市内で起業しようとする人や、起業後間もない人を支援しています。起業・創業支援の取り組みは、市ホームページをご覧ください。



TOLIC

Tohoku Life science Instruments Cluster

医療テクノロジーの先端へ

市は、成長産業と位置付けるヘルステック産業の振興を図るため、企業間・産学官金の連携を促進し、人材の育成・確保・定着を推進するTOLICの活動を支援しています。

TOLICの取り組み

唾液による

がんの簡易検査サービスを開発!

人工知能(AI)を活用し、最大13種類のがんの検査ができるサービスの実用化に取り組んでいます。それまでの検査に比べて体への負担が少なく、3日間程度で結果が分かるほか、費用を抑えられるのが特徴。装置の開発から解析まで、会員企業5社が中心に取り組んでおり、国内外への普及が期待されます。

こんな事を
しています!

受賞歴



第28回
東北ニュービジネス大賞表彰
「東北ニュービジネス大賞」
(令和4年3月)



第12回
地域産業支援プログラム表彰
「経済産業大臣賞」
(令和5年6月)

ロボットで人と医療をつなぐ

株式会社東北医工 大関 一陽 代表取締役

日本では脳卒中患者に対して、作業療法士の数が圧倒的に不足しており、少子高齢化が加速する中、医療現場の負担軽減と治療機会の増進につながるリハビリロボットのニーズが増えていくことに着目しました。初号機の開発着手から10年、令和6年度から国内販売を開始する予定であり、「テクノロジーで人と医療の架け橋になる」を社としてしています。



ゲーム機能を取り入れるなど、楽しく手指のリハビリができる「医療機器としての脳卒中リハビリロボット」を岩手大などと開発。「ビジネスコンテストX-Tech Innovation2022東北地区最終選考会」では、県内企業初となる最優秀賞を受賞。



「オール盛岡」で世界へ

株式会社セルスペクト 岩淵 拓也 代表取締役

新型コロナウイルスの診断薬を全国で先駆けて開発し、薬事承認を得ることができました。厚生労働省の検査キット全国供給拠点として、その緊急製造を盛岡地域の延べ1000人以上の皆さまにお手伝いいただきました。製品の開発・製造・販売の全てを盛岡で行っており、地域の皆さんとアイテムを生み出し、育てていくことにやりがいを感じています。



自宅で簡単に、健康診断で使われる項目や感染症などを検査できるサービスを展開しているほか、歯周病の検査キットや子宮内腫瘍性卵巣がんの検査装置などを開発。ネコの健康チェックができる検査キットは「2023年度グッドデザイン賞」を受賞。



次世代 人材育成 について

TOLICでは、地域の次世代を担う学生などの人材育成に力を入れています。インターシップの受け入れのほか、TOLIC会員などの寄付によりドイツで開かれる世界最大級の医療機器展示会「MEDICA」に学生を派遣しています。

MEDICA2023に 行ってきました!

MEDICAでは実際に商談を体験し、世界中の来場者に英語で製品を紹介しました。初めは不安もありましたが、「単語だけでも話してみよう」と楽しみながら臨むことができ、多くの人と名刺交換をし、製品に興味を持ってもらえました。将来は医師として世界中で働けるよう、今回の経験を生かしていきたいです。



盛岡第一高 2年
小笠原 くらさん

TOLICをもっと知りたい人へ

TOLICでは、会員企業の事業紹介や学生の研究成果発表、国内外の学術機関による最先端の研究発表などを盛り込んだ「TOLICカンファレンス」や「ヘルステック・デバイス・フォーラム」などのイベントを開催しています。

また、ヘルステック関連の企業が入居するヘルステック・イノベーション・ハブ(HIH)の展示スペースでは、TOLIC会員企業をはじめとしたHIH入居企業の製品や取り組みを紹介しています。詳しくは、TOLICホームページをご覧ください。



ヘルステック・イノベーション・ハブ(北飯岡二)